



歴史都市防災シンポジウム

世界の復興・保存事例から



2009年10月15日(木)

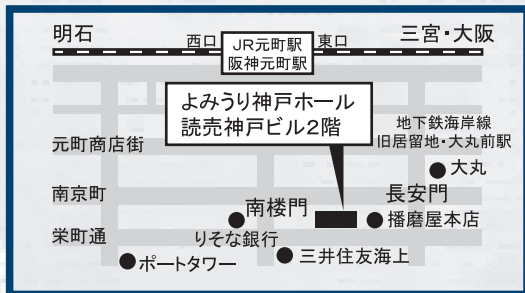
13:00 - 17:15



参加費無料 使用言語：日本語
定員 200名 定員に達し次第締め切らせて頂きます。事前にお申込み下さい。

会場：よみうり神戸ホール

兵庫県神戸市中央区栄町通1-2-10 読売神戸ビル2階



大震災教訓発信シリーズ「もっと伝えよう」シンポジウム



この事業は、「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。

15年前、神戸のまちは大地震により傷つけられました。近年は、異常気象によって頻発している洪水などにより、世界中のまちに災害のリスクが広がっています。特に、歴史的な背景が、住まいやそのほかの建物に映し出されている、アジアの歴史都市においては、まちの文化も、災害によって危機にさらされているのです。

「防災」が十分に発達していないところでは、緊急対応や復興計画がしっかりしない事によって、文化遺産や歴史にも大きな傷が付きます。人々の生活を再建するに必要なライフライン・経済と同様に、文化遺産は、まちが再生していくのに欠かせない存在です。

このシンポジウムでは、中国、インドネシア、ネパールの各国において、文化遺産の防災・再建に取り組んだ経験のあるゲストを招き、文化・歴史のまちの防災について考えていきます。

神戸は旧居留地や南京町、北野の異人館街をはじめ、様々な歴史の上に建てられています。加えて、この関西地方には、京都、奈良、姫路などの世界遺産のまちをはじめ、日本の歴史が息づいています。是非、この機会に、「文化」を守るとりくみを一緒に考えてみませんか？



主催／お問合せ先：国際連合地域開発センター（UNCRD）防災計画兵庫事務所（国際防災シンポジウム実行委員会事務局）

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ヒト未来館5階
TEL: +81-78-262-5560 FAX: +81-78-262-5568 E-mail: rep@hyogo.uncrd.or.jp URL: www.hyogo.uncrd.or.jp

共催：立命館大学歴史都市防災研究センター、国際連合国際防災戦略（UNISDR）兵庫事務所 後援：兵庫県、読売新聞大阪本社
このシンポジウムは 阪神・淡路大震災15周年記念事業及び、立命館大学グローバルCOEプログラム事業関連行事として開催いたします。



プログラム

- 12:30 - 13:00 受付
- 13:00 - 13:20 開会挨拶 小野川 和延 国際連合地域開発センター (UNCRD) 所長
 谷口 仁士 立命館大学 教授
 松岡 由季 国際連合国際防災戦略 (UNISDR) 兵庫事務所 代表
 開会にあたって: シンポジウムの趣旨説明
 安藤 尚一 国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所 所長
- 13:20 - 14:10 基調講演 「文化遺産の防災ー過去、現在、未来ー」
 土岐 憲三 立命館大学歴史都市防災研究センター センター長
- 14:10 - 14:30 報告1 京都「立命館大学GCOE「文化遺産防災学」への取り組みー清水周辺地域での京都市防災水利整備事業からー」
 大窪 健之 立命館大学 教授
- 14:30 - 14:50 報告2 ネパール「カトマンズにおける文化遺産とリスク管理」
 ジシュヌ・スベディ トリブヴァン大学工学研究所土木工学学部 助教授
- 14:50 - 15:10 報告3 インドネシア「文化遺産の震災復興: ジョグジャカルタの経験から」
 イカプトラ ガジャマダ大学建築計画学部 准教授
- 15:10 - 15:30 報告4 中国「四川大地震の復興ー歴史文化遺産の修復と保護」
 万 小鵬 成都市計画管理局計画編成管理部 部長
- 15:30 - 15:50 報告5 神戸「災害後の歴史的環境の保存に向けて」
 足立 裕司 神戸大学 教授
- 15:50 - 16:10 休憩
- 16:10 - 17:10 パネルディスカッション「これからの歴史都市の防災ー被災・保存の経験を活かして」(仮題)
 進行役 小林 正美 京都大学 教授
 パネリスト 谷口 仁士 立命館大学 教授
 飯塚 明子 京都大学地球環境学堂 元研究員
 イカプトラ ガジャマダ大学建築計画学部 准教授
 万 小鵬 成都市計画管理局計画編成管理部 部長
- 17:10 - 17:15 閉会挨拶 永田 広道 読売新聞社神戸総局 総局長